

図書館だより

1996. 4. 20

第 18 卷 1 号

通巻 137 号

Bulletin of the Hokkai Gakuen University Library

一九が、歌麿が、北斎が
そして写楽がいた

蔦のからまる **夢工房**

平和は芸術のゆりかごである。
その平和のただ中にも芸術家の闘いがある。

今を去る 205 年前。

1791 年夏。ペテルブルク。

日本からの漂流民、大黒屋光太夫は植物学者、ラクスマンの介添で時の女帝、エカテリーナと会見。帰国を許された。

その同じ時。ウィーンでは、モーツァルトがああ最後の『魔笛』を作曲中であつた。

この時代。日本では江戸寛政年間。

老中、松平定信は吉宗の孫として実権を握り、儉約令を持続中だつた。

1792 年。光太夫帰国。

しかし、彼を待っていたのは、定信による幽囚。

この同じ時期。江戸通油町に書林を開くジャーナリスト、蔦谷重三郎も又、難に会つていた。財産半減。所属の作家、山東京伝は手鎖 50 日の刑。

その蔦谷の工房に、かけ出しの一九、北斎がいた。そして、又、美人画のあの歌麿も。

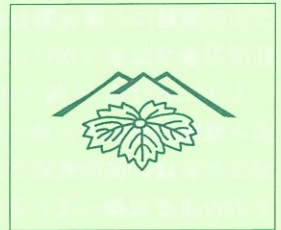
やがて、彗星のごとく、写楽が現れる。

平和のただ中にこそある芸術の相克

— 天にももらった
命なら

書彩
星彩

①



書林蔦谷の紋

写楽 歌舞伎役者の似顔をうつせしが、
あまりに真を画かんとて、あらぬさまに
画きなせしかば、長く世は行われず
一両年にて止む

大田 南畝

Sir Kaldor (1908-1986)を偲んで

— 本と人 — その4

はじめて 現代経済学を 学ぶ君へ

カルドア卿は、ご逝去の前年、1985年(昭和60年)国際経済シンポジウム「経済摩擦の解消をめざして」(朝日新聞社等主催、3月19日)に招かれ来日された。そしてこれを機会に開催された『朝日ジャーナル』の座談会において、司会の都留重人元一橋大学長から、経済学や経済理論を研究分野に選んだ理由を質問された。その時卿は1923年に15歳の私はドイツの行楽地で休暇を過ごし、そこで目撃したのは、物の値段が1日のうちに2度も書き換えられるようなひどいインフレーションだった。何故こんな事態にと深い関心をもつようになったのが、経済学を学ぶきっかけになった、と答えている。

人生における15歳の通過儀礼的慣行とは別の、深い意味について、語っている人は少ないが、ボッシュは、彼の著書『われら不条理の子』の中で次のように綴っている。— 私は戦争が終わった時15歳であった者のひとりである。15歳であって18歳でも20歳でもなかったということに大きな意味がある。何故なら15歳とは、初めて世の中に眼を開く年齢であり、まだ軟らかい蠟(ろう)のような精神の中に時代の事件が刻みこまれる時だからである。

私もまた15歳で敗戦を体験した者のひとりである。私のトラウマの一端は、「雪消の季節」(『図書館だより』第16巻第1号、1994.4.15)に記し

てあるので、興味のある方はご覧下さい。

カルドア卿との出会いは、今から30年前、私が憧れのケンブリッジ大学へ留学した時のことだった。卿は1965年(昭和40年)に経済・政治学部における7人目の教授になられていたが、その「就任講義」(inaugural lecture)が一年も遅れたのは、イギリスがポンド危機に直面したために、労働党政府の税制顧問であった卿が多忙であったためといわれている。実際、ポンドは翌年1967年、私が9月22日に帰国後の11月19日、1ポンド=2.80ドルから2.40ドルへ、戦後2度目の平価(14.3%)の切下げとなった。ポンドで預金をしていた私は二重の意味で幸運であった。

1966年11月2日この夜のレディ・ミッチェルホールは、二階まで鈴なりの超満員、祝福の熱気が溢れていた。午後5時、拍手のなかをカルドア卿が登壇、「英国の経済成長低率の原因」と題する教授就任講義をはじめた。いつもは心にくい程落着いたカルドア卿も、今夜は緊張してか顔をやや赤らめ、あのベニスの商人のような太鼓腹を机に押しつけるようにして、早いテンポで語りつづけた。講義のさいには時代錯誤的でユーモラスに感じる黒いガウンもこの夜の雰囲気の中で、むしろ荘重の趣を醸し出していた。

そしてカルドア卿のイノグラル・レクチュアの

新着図書

—— 経済・法律関係

政治と市民の現在／米原謙、土居充夫編 内国為替取扱実務／高田輝男著 血統訴訟論 親子確認の新たな法理を探る／松倉耕作著 コミュニタリアリズム／宇賀博著 日本の政治 現場報告／明治学院大学法学部立法研究会編 PKO派兵 分析と資料／剣持一巳著 国連システムを超えて／最上敏樹著 時効なき戦争責任／アジアに対する日本の戦争責任を問う民衆法廷準備会編 問い直す東京裁判／アジアに対する日本の戦争責任を問う民衆法廷準備会編 裁判官の書齋 続々々／倉田卓次著 自治体学 市民自治をめざして／須見正昭著 戦後デモクラシーの源流／武田清子著 ゴルバチョフ・エリツイン 革命／清水良三著 環境破壊 社会諸科学の応答／三戸公、佐藤慶幸編著 満州国と国際連盟／白井勝美著 自由主義の政治思想／ピエール・マナン著 日本国憲法を生んだ密室の九日間／鈴木昭典著 国際秩序の解体と統合／川上高司著 クリントンとアメリカの変革／藤本一美編著 PKO 法理論序説／柘山亮司著 国際女性条約・資料集／国際女性法研究会編 特許明細書解説／阿形明著

柴田義人

Sir Kaldor(1985)



内容は、時論的なテーマにも拘らず、理論的にも実証的にもまさに重厚そのものであった。イギリス古典経済学の伝統をふまえて、経済成長と産業構造の変化を、生産性との相関関係において検証し、イギリス経済の低成長率を克服するための処方箋を用意したのであった。

カルドア卿の教授就任講義は、翌朝の新聞で紹介されただけではなく、3日後の11月5日号の『ザ・エコノミスト』では、カルドア卿の教授就任講義は、政府の経済政策の最近の奇妙な着想の背後にある考え方を明らかにしたものととして、「SETの解明」という特集記事が組まれた。SETはSelective Employment Tax（選択的雇用税）の略であるが、租税政策を通して、資本と労働の産業内移動を誘導するものである。

ポンド危機と経済沈滞とのジレンマに悩む英国労働党政府の経済政策のなかで、賃金凍結政策が物価抑制の所得政策として、消極的結果を予想したものであり、一方、SET政策は経済成長への積極的結果が期待されている。いずれにしても、いままで、その真意が理解されずにいたSET政策の理論的な基盤が解明されたことによって、議論が建設的になったことは確かである。『ザ・エコノミスト』の論評も、カルドア卿の処方箋に示されている輸出や製造工業に加えて、サービス産業と

くに観光産業のなかにも経済成長への貢献度の高い部門があることを強調し、SET政策に幅広い視野を要請したのであった。

ところで、戦後多くの国々でほぼ完全雇用を含む経済成長をすすめて来た。しかし1960年代の後半に入り、それが困難になり新しい政策的カルテが求められていた。1つは、限られた労働力をより一層効率的に利用すること、いま1つは、国際的分業の利益をより一層活用することである。前者がSET政策へ、後者がEC加盟につながるのには容易に推論できるであろう。しかしカルドア卿はEC加盟に反対し、やがてサッチャー政策と対立する。何故か？ その理由は次号で。(つづく)

(しばた・よしと 経済学部教授)

経済・法律関係

新着図書

住宅火災保険普通保険約款 注釈/田辺康平、坂口光男編著 現代国際法の指標/村瀬信也 [ほか] 著
製造物責任法 その論点と対策/小林秀之著 国際外国為替法 上巻/ヴェルナー・F・エブケ著 国際外国為替法 下巻/ヴェルナー・F・エブケ著 憲法理論 3/阪本昌成著 商法の要説/喜多祐
著 民事執行・保全法要説/内田武吉編著 ハイブリッド憲法/中谷実編 戦争と平和の法/大沼保昭
編 オーストリア現代史の教訓/矢田俊隆著 マイノリティ・ナショナリズムの現在/マイケル・ワト
ソン編 不動産表示登記入門/枇杷田泰助、吉野衛監修 国際人権規約先例集 第2集/宮崎繁樹 [ほ
か] 編 労働法の規制緩和と公正雇用保障/脇田滋著 不正競争防止法の実務 逐条・問答・判例・書
式/出沢秀二 [ほか] 共著 企業のPL対策/岡本佳世 [ほか] 共著 中世朝廷訴訟の研究/本郷和人著
土地所有と身分 近世の法と裁判/後藤正人著 朝日新聞は主張する/朝日新聞論説委員室編 日本を
知る 101章/平凡社 病める大国/ロシア/桑原史成著 行政法/田中館照橘編 憲法/大須賀明編

My Memory of Sir Kaldor (1908-1986) — Books and Authors — no.4

Yoshito Shibata

In 1985, one year before his death, Sir Kaldor visited Japan in order to attend the symposium on international economy presented by Asahi Shimbun. A round-table talk was also held by Asahi Journal. Prof. S. Tsuru, the chairman, asked Sir Kaldor why he studied economics and economic theory. He answered; it was in 1923 that he, a fifteen-year-old boy, spent a holiday at a German resort. He experienced such terrible inflation that prices of goods changed as much as twice within just one day. The inflation stirred his interest and led him to study economics.

Fifteen is a very significant age—a turning point in life. Its profound meanings, such as initiation, have been mentioned by many people. For example, P. van Den Bosch expresses in *Les Enfants du Lâbsurde* — “I was fifteen years old when the war was over. The fact that I was fifteen, neither eighteen nor twenty, was extremely important because at the age of fifteen we begin to see the world at large and events of the age make a strong impression on our fresh minds.”

At the end of war I was fifteen years old, too.

My traumatic experience is described in “The Season of Thaw” in *Bulletin of Hokkai Gakuen University Library* (vol.16, no.1, 1994).

In 1966, I studied abroad at Cambridge University where I met Sir Kaldor. He became the seventh professor of the Faculty of Economics and Politics in 1965. It is said that his postponed inaugural lecture was held no less than one year later because he was quite busy as the Tax Advisor of the Labour Government during the sterling pound crisis.

In fact, it was in 1967, after I returned to Japan, that the sterling pound was devalued by 14.3%. It was the second devaluation after the Second World War. Therefore I was lucky in two ways; thanks to its postponement I was able to attend Sir Kaldor’s inaugural lecture, and the pound was not devaluated during my stay in the U.K.

On 2nd November 1966, the Lady Mitchell Hall was filled with enthusiastic audience. Sir Kaldor gave his inaugural lecture “Cause of the Slow Rate of Economic Growth in the United Kingdom.” He looked flushed with tension and talked quickly, which was unusual for him.



—— 経済・法律関係

テキストブック行政法／中西又三 [ほか] 著 法学入門／山川一陽 [ほか] 著 現代の法学入門／山上賢一編著 行政法／成田頼明著 法学入門／末川博編 (ベーシック) 行政法／関哲夫著 現代法学入門／伊藤正己、加藤一郎編 北海道の中堅 180 社／日本経済新聞社編 Q & A・被災不動産の法律相談／丸山英気、折田泰宏編 公企業要論／山本政一著 広告の法的意味／桜井園郎著 GII 世界情報基盤／アルバート・ゴア [ほか] 著 逐条解説改正特許法／熊谷健一著 八月の神話 原子力と冷戦がアメリカにもたらした悲劇／スチュワート・L. ユードル著 入門経済学／長尾信吾編 (新)財政学／里中恒志、八巻節夫編著 現代日本の生活問題／西村豁通編著 マーケティング・ベーシック 基礎理論からその応用実践へ向けて／日本マーケティング協会編 変革のリーダーシップ／飯塚昭男著 APEC 入門 開かれた地域協力を目指して／山沢逸平 [ほか] 編著 サービス企業における生産性・顧客満足・職務満足／サービス企業生産性研究委員会編 忍耐と希望 カンボジアの五六〇日／明石康著

His black gown created a solemn atmosphere that evening.

While his lecture was on current topics, it was dignified indeed, in points of theory and verification. Based on classical economics, he verified economic growth and the change of the industrial structure, interrelating with productivity, and suggested measures to overcome low economic growth.

His lecture was reported in the following day's newspaper. The Economist dated 5th November, in its special article on SET (Selective Employment Tax), showed that the lecture explained the basis of SET theory. In those days SET was regarded as the policy which caused inter-industry-movement of capital and the labour force through taxation. The sterling pound crisis and stagnation placed the then Labour Government in a predicament. Some of the government's policies, for example, the wage freeze policy for price control had some negative consequences on the one hand. SET was expected to have some positive ones on the other hand. The Economist's comments, supporting Kaldor's idea, stressed that some sectors of the service industry, especially tourism, as well as export and manufacturing, contributed to economic growth and that SET should be considered more fully.

As economic growth with full employment had not been maintained in many countries since the latter half of the 1960's, two new



シェークスピア夫人の実家の前で著者 (1967)

policy measures were required. One required more effective use of limited labour resources. The other required utilization of the benefits of the international division of labour. It can be deducted easily that the former is related to SET and the latter to EC integration. However, Sir Kaldor was opposed to British membership of the EC and, afterwards, Mrs. Thatcher's policies. Why? I will show you the reason in the next issue.

(Translated by Etsuko TERADA, Ph.D student of Graduate School of Economics)

経済・法律関係 ——— 新着図書

アメリカ合衆国テーマ別地図／ロジャー・ドイル編 ジョブシフト 正社員はもういない／ウィリアム・ブリッジス著 産業社会における組織と秩序／犬塚先著 リストラチャリングと組織文化／加護野忠男 [ほか] 編 自由の恐怖 宗教から全体主義へ／西尾幹二著 金融と経済がよくわかる本／原島健一著 私の「起業」物語／朝日新聞「ウイークエンド経済」編集部編 ダイエーvsヨーカ堂のPB戦略／溝上幸伸著 (図解でわかる) デフレ入門／西野武彦著 (実務) 内国為替入門／松本貞夫著 現代日本のビッグビジネス／安喜博彦著 現代世界経済システム／河村哲二、柴田徳太郎編 日米欧の経済・社会システム／榊原英資編 日本の論争既得権益の功罪／草野厚著 現代統計学を学ぶ人のために／吉田忠編 社会システム理論 下／ニクラス・ルーマン著 自動車ディーラー革命／安森寿朗著 『資本論』と社会主義／宇野弘藏著 法学／山下威士編 未来への決断 大転換期のサブバイバル・マニュアル／P.F. ドラッカー著 物流同盟／高田茂男編著 協同組合運動の転換／鈴木文熹、中嶋信編



世界を読む

「文ちがい」



コーニッシ 篁子

本学の岡野教授が10数年前ロンドンで研究をなさっている時、しばしば大英博物館の図書館をたずねられた。図書カタログを渉猟なさる中で気がつかれ、念頭から離れないある事項があった。倫敦からたまたま来た私にそれを告げられ、私はその儘同館に取次いだ。その時参考にとみせて下さった本が、南條文雄著「懷舊録」である。堅いブックケースに入った緑豆色の布貼りの記録は、片手に快く重い。

明治日本の仏教学に近代の研究手法の光をあて、かつ東洋の仏教知識を惜しみなく西洋学に与えた仏教学の泰斗南條文雄によって書かれたこの自叙伝は、明治男の闊達な精神を躍如として伝える。

明治初期というのは、古い体制が崩れて行き、新しい文物が急上昇で流入してくるいわば混沌の中で、人々は意外と自在な精神と態度で事に当たっていた気がする。めまぐるしい制度調整の中、朝令暮改もそう珍らしいことではなかった様だが、それに対応して人々は積極的に臨機応変に処し取捨撰択も任意に行っていたようだ。例えば明治5年の9月下旬、「以来僧侶も苗字を唱ふべし」という太政官布告が出た時のような事例だ。当時の浄土真宗法主が大谷を名乗られるようになったのもこの時からだという。徳川家の菩提寺東本願

寺派がそれまで明確に大谷でなかったという事実に驚きを感じる。とも角始めは衆議にかけ「兩本願寺とも六條に在るから、法主の苗字は六條にしよう」ということだったが當の法主が反対なので遂に大谷になったそうだ。況んや普通の宗教人に於いておや……で、南條家もこの時誕生した。文雄は岐阜大垣の大谷派誓運寺の三男であったが、明治4年23才の時、同派の越前憶念寺に養子に行っている。この時も、それぞれ何とか名乗らなければならず、しかも1週間以内に届け出よという厳重な達しなのに養父が北海道に巡化中で相談する時間が無い。それで取り敢えず養父の郡名をとって南條と届けたそうだ。本来なら自分の寺の憶念寺を苗字とする方が穏当だが、坊主臭くて厭なので仲間うちで名乗っていた南條を公式に届け出たまでだ……としている。

南條文雄は京都高倉学寮で仏教学を講じていたが明治9年渡欧の途に着く。法主現如上人の後楯があり、西欧知識の摂取とサンスクリット学体得の目的を抱いていた。洋上の文雄は好奇心抑えがたく、予備知識の書を読破していく。『輿地誌略』で地理にも通じて行き、香港、柴棍、新嘉坡、錫蘭、^{サイゴン}アデン、^{シンガポール}スエズ、^{セーロン}亜丁、^{スエズ}蘇士を経、ポートサイドから地中海に入ってナポリを通りマルセイユ上陸、2カ月の長途の旅の後ロンドンの土を踏んだ。文雄は詩心も豊か

新着図書

—— 人文関係

昭和文学年表 第4巻／浦西和彦、青山毅編（岩波講座）日本文学史 第5巻／久保田淳〔ほか〕編（新編）英和活用大辞典／市川繁治郎編 「日本文化論」の変容 戦後日本の文化とアイデンティティー／青木保著 バルカン歴史と現在／ジョルジュ・カステラン著 多文化世界 違いを学び共存への道を探る／ヘルト・ホフステード著 異文化コミュニケーションキーワード／石井敏〔ほか〕著 ヨーロッパ統合と文化・民族問題／西川長夫、宮島喬編 「甘え」の構造／土居健郎著 かくれた次元／エドワード・ホール著 パレスチナとは何か／エドワード・W. サイド著 ヨーロッパ連合への道／石川謙次郎著 EU/EC法 欧州連合の基礎／山根裕子著 新しい東欧 ポスト共産主義の世界／アンドルー・ナゴースキー著 カルチュア・ショックの心理／近藤裕著 国連の可能性と限界／モーリス・ベルトラン著 人と人との間 精神病理学的日本論／木村敏著 異文化を読む 日米間のコミュニケーション／岡部朗一著 日本人の表現構造／D.C. バーンランド著



ロンドンから 世界を読む

である。各地でその風物を格調高い漢詩に謳い上げた。ロンドンでも活発に行動する。菊地大麓が作っていた日本学生会に属し研究文を発表し討論を展開する。後年ロンドンを陰鬱としていた夏目漱石とは大分違う。

真骨頂のサンスクリット学に入るのは明治12年、ウェストミンスター司教の紹介で、東洋学の大権威マックス・ミュラー博士に会ってからである。爾後6年間、牛津(オックスフォード)で孜孜として經典に取組む。黄壁版の一切経をインディアオフィスから借りるが法華経第十八願成就文中、至心廻向の一句に相当する部分がなくその解明のため極楽莊嚴經の梵本写本に1週間ぶっ続けの徹夜をしたりする。マックス・ミュラー博士との交流は緊密で、学者として呼吸の合い方は理想的であったようだ。「大無量壽經」の梵本研究などは南條文雄の仏教界への大きな貢献である。次々と発表する英文での研究論文にも瞠目すべきものがある。イギリスでそれらが編纂され記録されて図書館等に収められている。

冒頭の本題に戻るために次のエピソードを本文から引用する。「あの小僧は誰や？」と上人は側の者に尋ねられた。「あれは憶念寺であります。」と誰かが答えた。上人は重ねて「どこの憶念寺や？」と問われた。成程憶念寺は方々にある。現に京都

にも在った。それでその人は越前の憶念寺である旨答えた。越前には大谷派の寺が200カ寺余りあるが、憶念寺は私の寺だけである。「そうか、越前の憶念寺なら神興(養父の名)で今は北海道巡化中の筈だ。住職でない者は名前を言え」と注意された。磊落のようでも中々細かい処に気を遣われる方だ。側の人は恐縮して「あれは文雄と申します」と答えると上人は早速「なんじゃ、蚊のような名やな」と笑われた。テニオハを抜く癖のある京言葉では蚊がやって来ると、ブンいふて来たという、それを冗談に言われたのであった。

文雄はブンユウなのである。ふみではない。岡野教授は大英博物館の図書館カードにFUMIOの文字を幾つか見つけられたのであった。後に図書整理をした人の誤りに違いない。問合せに対して、BUNYIUもあるが、もう一度見直して直ぐ調整する、ご指摘に対し感謝する、との返答があった。

「懐舊録」もおそらく同図書館か、ロンドン大学東洋アフリカ研究所あたりにあるのではないか。オックスフォード大学のボドレイ図書館にもあるに違いない。おいでになる方はブンユウにきちんととなっているかを確かめていたゞけまいか。

(セツコ・コーニッシ 元人文学部講師)

人文関係 — 新着図書

近代ジャーナリズムの誕生 / 村上直之著 明治人名辞典 3 上巻 / 日本図書センター 明治人名辞典 3 下巻 / 日本図書センター 大正人名辞典 3 上巻 / 日本図書センター 大正人名辞典 3 中巻 / 日本図書センター 大正人名辞典 3 下巻 / 日本図書センター 昭和人名辞典 3 / 日本図書センター

THE
Beatlesの

世界を読む

〔BeatlesのNew Album「アンソロジーI、II」が発売されました。解散から26年、Beatlesはまだ「生きて」います。そして今も新たなBeatlemaniaを増やし続けています……。〕

「アストリット・Kの存在」 小松 成美著 世界文化社



まだビートルズが5人組で貧しいロックンローラーだった頃に、互いに影響し合った写真家アストリット・キルヒヘアの物語です。というより、「ビートルズ・カットの生みの親」「ビートルズがデビュー当時に着ていた襟なしスーツの考案者」と言ったほうが興味を持っていただけますか？

人生にたられれば無いといわれるけれど、でもどうしても彼女と彼等の出会いがなければと思わずにはいられません。

生きていくと言う事は影響し、影響され、傷付け、傷付けられ、もがき苦しむ事だとはわかっていても、こんなにもと思える生き方に出会い、息をのむ思いでした。五番目のビートルズといわれ

たスチュアート・サトクリフと彼女の愛、そして彼の突然の死。天才画家といわれ将来を嘱望されながら、志なかばでビートルズともアストリットとも永遠の別れを迎えなければならなかったスチュアートを思うと涙があふれてきます。

その後のビートルズは世界を席卷し、皮肉にもアストリットを翻弄してしまいました。写真もやめてしまった彼女の残りの人生はどんなだったのでしょうか？

映画「バック・ビート」で初めて彼女のことを知った私は、この本にとびつきました。アストリットの強さと才能と美しさに圧倒されながら一気に読み終えました。

60年代に炸裂したエネルギーをあなたも感じてください。

載せている写真は「アストリットとスチュアート」とスチュアートの作品です。(M)



新着図書 — 工学関係

北海道住宅史話 上/遠藤明久著 北海道住宅史話 下/遠藤明久著 ビルブック 葉の辞典 '96/橘敏也著 全日本道路地図/昭文社 詳解電気回路演習 上/大下真二郎著 例解物理数学演習/和達三樹著 蛇行部の流れ/小沢功一著 現代観光総論/前田勇編著 観光とサービスの心理学/前田勇著 道路鉄道交差及び新交通・地下鉄等に関する事務要覧/道路管理制度研究会編 転落事故と河川管理責任/河川管理訟務研究会編 都市交通の展開/平井都士夫著 詳解電気回路演習 下/大下真二郎著 北海道都市地図 札幌区分 全市主要町詳細図/昭文社 青森県都市地図/昭文社 岩手県都市地図/昭文社 奈良県都市地図/昭文社 和歌山県都市地図/昭文社 香川県都市地図/昭文社 長崎県都市地図/昭文社 統計解析技法/内山敏典著 グルメのおもしろ語源集/月刊「食生活」編集部編 例解力学演習/戸田盛和、渡辺慎介著 例解電磁気学演習/長岡洋介、丹慶勝市著 例解量子力学演習/中嶋貞雄、吉岡大二郎著 例解熱・統計力学演習/戸田盛和、市村純著

展示会コーナー

『秀吉』展～本学、北駕文庫所蔵古文書より～

平成8年3月1日～5月30日／図書館1F・展示コーナーにて

- 織田信長関係文書……織田信長譜(林 羅山著、寛永18：1641) 信長將軍記1～3、3冊(寛文4：1664)
- 信長像(上座の人物)……織田名士鑑(雷山先生選、慶応元：1865)
- 本能寺の変……信長將軍記1～3、3冊(寛文4：1664) 武家圖象傳1～6、6冊(天保3：1718)
- 秀吉像(羽柴秀吉)ほか……戦乱の日本史[合戦と人物]10 天下人への道 風土社編、第一法規、昭63日 吉丸……秀吉將軍記1～3、3冊(寛文4：1664) 太閤記筆の聯1～5合冊(荘英作、春亭画、寛政11：1799)
- 秀吉系図及び素性記……豊臣秀吉譜上・中・下、3冊(林 羅山著、寛永19：1642)
- 仕える、草履取、長槍戦法……繪本豊臣勲功記第1～7編、各編10冊、70冊 櫻澤堂山編輯、松川半山画、洲股築城、大返し、山崎戦(慶応4：1868)
- 秀吉の諸事跡……近代正説碎玉話 武將感状記(淡庵子編集、聖徳6：1716)
- 関ヶ原の戦い……関ヶ原日記大全巻1～28、5冊、写本(慶長3：1598)
- 関ヶ原の戦い両軍配置図……(関入) 関原軍紀備考 巻之1～5、3冊、松本吟天社(明治19：1886)
- 本能寺の変(記録)……史料綜覧 巻11 天正10(1583)、6、安土・桃山時代(明治4：1871)
- キリシタン追放令…… ” 巻13 天正15(1588)、6、19。
- 鎧と兜・王冠図……豊公遺寶圖略上・下、2冊(天保3：1832)
- 羽柴秀吉血判起請文……大日本史料11編之1 天正10(1583) 東大史料編纂所編纂 地下別置
- 太閤検地……太閤検地論 宮川満 御茶の水書房 1957
- 検地帳・刀狩条目等……豊臣政権の研究 三鬼清一郎編(戦国大名論集：18) 吉川弘文館、昭59
- 大阪夏・冬の陣(記録)……大阪御陣日記上・中・下、3冊、写本
- 豊臣氏大名配置図(1598)……図説日本文化史大系8 安土・桃山時代 巻末附図 小学館、昭31
- 利休像……千利休 唐木順三(筑摩叢書：6) 筑摩書房、昭38
- 利休：妙喜庵茶室「待庵」……茶匠と建築 中村昌生(SD選書53) 鹿島出版会、昭46
- 秀吉命・利休作「黄金の茶室」……千利休と日本人 栗田勇 祥伝社 平成2
- 本阿弥光悦作の茶碗……日本陶磁器大系18 平凡社、1990
- 御葬式……太閤秀吉公御葬式行列書 小林國禎(天保9：1838) 軼入
- お市の方……大日本史料11編之4 天正11(1584) 東大史料編纂所編纂 地下別置
- 鉄砲の図(天正11)…… ” 11編之5 天正11(1584) ”
- 豊臣秀吉朱印状……皇室の至宝11書跡2 御物 宮内庁協力 毎日新聞社、平成4
- 秀吉像(羽柴秀吉)ほか……NHK 歴史への招待第13巻 復刻版 NHK出版、平成6
- 秀吉像(晩年)……NHK 歴史誕生7 角川書店、平成2
- 天正12年頃の世界地図……リンスホーテン東印度航海誌所載航路図(1585) 大日本史料11編之7 天正12(1585) 東大史料編纂所編纂 地下別置
- 南蛮船(ポルトガル)……朝日百科 日本の歴史6 朝日新聞社、1989
- 移築された秀吉の居間?……西教寺(さいきょうじ) 客殿 上座の間 滋賀県坂本 原色日本の美術12 城と書院 小学館 昭43 改訂版 昭62
- 移築：聚樂第(邸宅)?……西本願寺飛雲閣(庭園中に建てられた桃山時代の楼閣建築。聚樂第の一部という説あり。) 日本美術大系第1巻 建築 講談社 昭35
- 竹梅図屏風 尾形光琳作……水墨美術大系第10巻 講談社 昭50
- 豊国祭礼図 狩野内膳筆……慶長9(1604)、秀吉7回忌の臨時祭礼に催された町組衆の大輪舞。原色日本の美術13 障屏画 小学館 昭43 改訂版 昭62

工学関係

新着図書

ヒルサイドテラス白書／楳文彦、アトリエ・ヒルサイド編著 古民家再生術／古民家再生工房著 相関のディテール／石橋利彦、徳川宜子著 毒薬の誕生／山崎幹夫著 コンクリート技術シリーズ 1-9／土木学会コンクリート委員会編 土質力学要論／西田義親、八木則男著 めぐり逢えたら -英語字幕入り学習洋画ビデオ-／ソニーピクチャーズ スタンド・バイ・ミー -英語字幕入り学習洋画ビデオ-／ソニーピクチャーズ 誰かに見られてる -英語字幕入り学習洋画ビデオ-／ソニーピクチャーズ

春風と共に現われ 谷風と共に去る写楽

— 10カ月余 140点描いて —

花はとうに散っていた。
若葉の季節だった。
遠くに富士の白峰が見える。

1794年5月。
江戸通油町。
そこを通り抜ける風は心地良かったろう。

長い冬だった。
松平定信が退陣して、復活した歌舞伎。
この機会を逃がす葛谷重三郎ではない。

奥の仕事場で、2人の絵師の卵が話している。

「売れ行きはどうだい」
と一九。彼は29歳だった。
「なにかとまどいながら、それでも新奇なものを見るように次々と買って行く」
と北斎。彼は34歳だった。
「歌麿はなんと言っている？」
と一九。

「俺には、あんな色気のない女形の役者絵を見る気がしないって、言ってたぜ」

北斎がずらりと並べられたばかりの28枚の大首絵を見つめながら言った。

聖生活時代

四国知求紀行①

「京伝先生は今ごろは伊豆の温泉か」
と一九。

「写楽とは関係ないという風情だな」
と北斎が返す。

「で、次の仕事は始まっているんだろう。なにしろ2日に1枚のペースで引き上げるんだから」
と一九。

「うん。ところが、幕府の許しがなかなか下りない。圧力がきびしいようだ」
と北斎。

定信が退陣したとは言え、儉約令は生きている。葛谷重三郎は後退を余儀なくされた。大首絵から間判そして細判へと版を縮少せざるを得なかった。

それにつれて、写楽が持っていた迫力は失われて行く。

秋には、相撲人気があった。少年力士、大童山が出現。谷風も雷電もいた。

次は相撲絵のシリーズを出すはずだったが翌年1月。谷風が急逝。

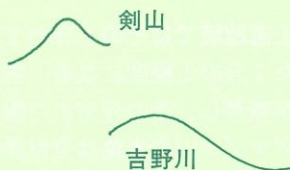
それと共に写楽の名も消えた。
葛谷重三郎も又、失意のうちに2年後の1797年に、47歳でこの世を去る。10カ月余に140点を描いた「写楽」の素姓を明かすことなく。

新着図書

— 教養・一般 —

スポーツと文明化 興奮の探求／ノルベルト・エリアス、エリック・ダニング著 新日本地名索引 別巻／金井弘夫編 日本民俗文化資料集成 第21巻／谷川健一編 戦後日本 占領と戦後改革 第1巻／中村政則 [ほか] 編 戦後日本 占領と戦後改革 第2巻／中村政則 [ほか] 編 戦後日本 占領と戦後改革 第3巻／中村政則 [ほか] 編 戦後日本 占領と戦後改革 第4巻／中村政則 [ほか] 編 戦後日本 占領と戦後改革 第5巻／中村政則 [ほか] 編 中世の風景を読む 第1巻／網野善彦、石井進編 試験と競争の学校史／斉藤利彦著 トーマス・マン日記 1940-1943／トーマス・マン著 国際理解教育と教育実践／エムティ出版 光工学用語辞典／光工学用語辞典刊行委員会編 (最新) アジア・オセアニア各国要覧／外務省アジア局 [ほか] 監修 情報処理ハンドブック／情報処理学会編 ヨーロッパ歴史地図／M. アーモンド [ほか] 編 群像日本の作家 23／大岡信 [ほか] 編 これだけは知っておきたいコンピュータの基礎知識／市川公士、藤森洋志著 アメリカ／音楽之友社編

慎しみの国 徳島県



「偉大な芸術家故の大なる苦悩」を持った作家と、写楽を評したのはクルトであった。

写楽の名が消えてから116年後。今から86年前の1910年（明治42年）のことである。

クルトは『写楽』の書き出しを阿波の国からはじめている。彼によれば写楽は能役者であった。一体彼はどこからその知見を得たのか。

写楽の名が消えてから、50年後、1844年に一人の史家が太田南畝の『浮世絵類考』（画家の人名録のようなもの）に追記した。斉藤月岑である。彼はその中で、写楽を「阿波候の能役者」と言い、「俗称を斉藤十郎兵衛」とし、「江戸八丁堀に住む」とした。

クルトが知見を得たのはここからであつたろう。

写楽別人説は多い。そこには「写楽ほどのクルトによって見出された天才でも、阿波の能役者ではロマンがな過ぎる」という心情からであろう。「豊国説」の梅原猛氏にはその想いが一層、強いようだ。

悲劇と楽天の 島かけ

— 2人の写楽と2人の十郎兵衛 —

『炎立つ』の著者として知られる岩手在住の作家、高橋克彦氏は「写楽別人説」からの唯一の「転向」者である。彼は月岑の史実をありのままに受けとるべきであると言う。（NHK『歴史発見』）

内田千鶴子氏はさらに実証を進めて、「能役者、斉藤十郎兵衛」の住所と年代を特定した。写楽は当時32歳。江戸八丁堀の写楽の長屋の隣には、国語学者の村田春海が住んでいた。（『写楽失踪事件』）春海は葛谷の常連作家だった。

阿波の当主は蜂須賀重喜。

実は彼は秋田藩佐竹家からの養子として、

「一汁一菜」の藩財政改革で知られるが、江戸育ちの風流人だった。葛谷重三郎が写楽の素姓を明かさなかったのは重喜に迷惑がかかることを恐れていたことだったろう。

フランキー堺氏は三度目の正直で「写楽」に出演した徳島人。篠田正浩氏は彼をもう一人の「写楽」と言う。元首相、三木武夫。作家、瀬戸内寂聴。ゴルフの尾崎将司。そして、もう一人の悲劇の主人公、人形浄瑠璃の十郎兵衛。

徳島は遠流と落人の島。つつしみ深い島である。春、菜の花の沖をお遍路さんが行く。一番札所は徳島にある。

今回はその空海の島：香川県。

教養・一般

新着図書

昭和災害史事典／日外アソシエーツ編集部編 『世界』主要論文選／『世界』主要論文選編集委員会編 現代科学自由自在／相磯秀夫、尾河洋一編 オゾン層破壊／環境庁地球環境部監修 Windows95 ネットワーク構築ガイド／Brad Shimmis、Eric Harper 著 英文ビジネスライター文例大辞典／田久保浩平、橋本光恵編 書庫縦横／朝倉治彦著 車いす司書ハート貸し出します／河原正実著 （ビジュアル）データ・アトラス '95-'96／オフィス宮崎 [ほか] 訳 北海道ボランティアしてみませんか／北海道ボランティア研究会編 エドウィン・ダンの妻ツルとその時代／阿部三恵著 もめぐと110番／斎藤陽子著 思い出の遠友夜学校／札幌遠友夜学校創立百年記念事業会編 小樽の建築探訪／小樽再生フォーラム編（画集）神田日勝／神田日勝著 おれはお前のボスだ／明石克之著 北海道の樹木と民族／伊達興治著 アイヌ 海浜と水辺の民／大塚和義著 アイヌ語地名の輪郭／山田秀三著 流水／遠峰徹弥著 はるかシベリア 戦後50年の証言 続／北海道新聞社編 私たちの戦後史／北海道新聞社編

アマゾン泳ぐのは今のうち

大江 敏 美

大河アマゾンの源流ウルバンバ川は、河口から6,500 km 上流の密林の間を流れている。そのあたり標高5,758 m の Nevado Veronica が密林の奥に聳えている。Nevado とは万年雪の頂上をもつ山の呼称である。汽車とバスを利用してアンデス山中のインカ遺跡を見学しながら、つい先日泳いで来たアマゾン中流の風景を思い出していた。

アマゾン川 (Rio Amazonas) という呼称はブラジルでは河口から1,600 km のマナウスまでである。そこから上流は支流の名前で呼ぶ。この地点は西北からのリオ・ネグロ (Rio Negro) と西南からのリオ・ソリモンエス (Rio Solimões) の合流点になっている。リオは川で、この2つの支流は、酸度、温度、比重、色合 (ネグロが透明の黒色、ソリモンエスが不透明黄土色) が異なり、20 km 下流で交ざり合うまで渦を巻いたり、押し合いへしあいして行く様子をボートで見物するのが観光の目玉のメニューである。マナウスでの川幅は20 km で、川中島が無数にあり、増水期 (3月前後) に水没してしまうものもあるが、乾季 (8月前後) には水面が8 m も下がる。ワニ、ピラニア (約30種類のうち、肉食性はその半分) などは餌の多い川中島近くに棲息している。川中島といっても大きいのは、河口に面積が北海道の半分近いのがあり牛など牧畜が盛んである。

うっかり水に入ればピラニアに食いつかれる。川底には何十種類のなまずがいて、大きいのは体長が2 m もあり上から餌が来るのを待ち受けている。そういう危険性があるが、せっかくアマゾンまできて、水浴もしないで帰国するのは男児の恥と思って、ボートを岸辺から50 m ほど離してもらって、「水清ければ魚住まず」と信じてボートのへりから飛び込んだ次第である。日本の河川は自浄能力を失い始めているが、やがてアマゾンも泳げない日がやってくるかも知れない。

アマゾン地帯の年間降水量は3,000 mm 以上

もあるが、上流地域ではその2分の1、源流地域ではそのまた2分の1程度になる。密林では水量の3分の2が蒸発し、その分がまた雨になって地上に戻る。アマゾン川の水量は全世界の淡水量の3分の2、河口からの一日当たり放水量は、170億トンで、全米所帯の5か月以上の水使用量に等しい。この水は次第に安全性を失おうとしている。

その理由は、急速に生態系破壊が進み、鉱山開発、金銀錫などの精錬、コカイン製造などによる水質汚染、発電の為の大規模ダム建設、木材生産、農地開発など、人間活動の無制約状態による。そうでもしなければブラジルの国家がやって行けない。外国人は口うるさくアマゾンの自然保護を叫ぶが、それに必要なコストを分担する力がない。ブラジル政府はやっと重い腰を上げて資源保護、環境監視、麻薬防止、密入国取締まりのため2000年から稼働する衛星レーダーでアマゾンの監視を始めようとしている。

(おおえ・としみ 教養部教授)

